

早稲田大学
図書館紀要

第 54 号



機関リポジトリ構想の実現

加藤 哲 夫

わが国の大学図書館が所蔵する学術資料はどのように利用されているのだろうか。いつも疑問に感じていた。論文を作成する折、他の大学が所蔵する資料を見たいと思いつく。その図書館に出向いたことが、かつてあった。地理が不案内の大学構内で、やっとならぬこと資料にたどり着いたことを覚えている。

自分の研究室にいながらにして他大学の図書館にアクセスし、しかも資料の閲覧がパソコン上で可能であったならば、夢をもみた。しかし、図書館長に就任して、それが現実になりつつあることを知って、度肝を抜かれた。

「機関リポジトリ構想」である。国立大学図書館、そして早稲田を中心とする私立大学図書館がコンソーシアムを形成して夢のような構想が進行している。わかりやすくいえば、「大学連合図書館」といったコンテンツをサイバー上に構築しようとするアイデアである。

多くの大学が学術資料を共有しようとする発想は、もうここまですべて来ている。まさに驚異である。

2007 年 3 月